

府立学校キャリア教育推進プラン（中間案）

プラン策定の趣旨

今日、少子高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として将来への不透明さが増幅するなど、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化しています。

こうした中で、子どもたちが生きていくためには、社会の激しい変化の中で直面するさまざまな課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにすることが大切です。

府立学校キャリア教育推進プラン検討会議においては、現状と課題を明らかにし、高校生段階で将来を見通した勤労観・職業観をはぐくむ教育内容の充実に向けての施策の基本方向と重点施策について検討してまいりました。この度、そうした検討のまとめとしてこの「府立学校キャリア教育推進プラン（中間案）」を策定しました。

キャリア教育とは

児童生徒一人一人が社会人・職業人として、主体的に自分の人生を生きるために必要な意欲・態度や能力を、学校の教育活動全体を通じて育てる教育のことであり、端的には「児童生徒一人一人の社会的自立に向けて、勤労観、職業観を育てる教育」のことです。

（注）キャリア……児童生徒一人一人が具体的な職業や活動の場などの選択、決定を通し、また、生涯にわたって努力しながら「職業能力」を蓄積していく過程を示す概念

現状と課題

府立高校においては、次のような取組を実施し、キャリア教育を推進しています。

全ての高校において、学校独自の手引き等を用い、学年に応じて、自己理解や適切な職業観、進路選択能力の育成のための系統的な進路学習を特別活動等において実施しています。

自己の希望や能力・適性等を把握し、将来の生き方や職業を適切に選択できる能力を身に付けるためには、自己理解を深める取組が大切であり、府立高校では、進路適性検査や職業適性検査、クレペリンテスト等により、自己理解を深める取組を実施しています。

(単位：校)

	実施校数	実施率(%)	実施校数	実施率(%)
進路適性検査	38	79.2	40	83.3
職業適性検査	29	60.4	28	58.3
クレペリンテスト	17	35.4	17	35.4

(注) クレペリンテスト... ・計算作業の能率度を測る方法
 ・前後半15分ずつ合計30分計算作業を行う方法

職業を適切に選択していくためには、企業等と連携を図って様々な体験をすることが大切であり、府立高校では、インターンシップや職場見学、社会人講師による講話等、企業等と連携した様々な取組を実施しています。

なお、インターンシップについては、実施している学校数は昨年度と比較して増えていますが、より一層充実していくことが必要です。

(単位：校)

	実施校数	実施率(%)	実施校数	実施率(%)
インターンシップ	18	37.5	12	25.0
職場見学	29	60.4	18	37.5
社会人講師の講話	30	62.5	30	62.5

全国的にフリーターやニートが社会問題になっている中で、高校卒業時に進学も就職もしない無業の者が、昨年度と比較して減少していますが、依然、約4%存在するほか、就職後6か月未満で離職する者も約8%いるなど、働くことを見失い、職場に定着しない若者がいます。

(府立高校進路状況)

(単位：%)

年度	大 学	短 大	専修・各種学校	就 職	予 備 校 等	無 業
	49.1	9.3	19.7	10.6	7.2	4.1
	45.9	10.2	21.6	10.2	7.2	4.9

北部地域の高校を卒業し就職した者の中で、地元就職しているのは約50%ですが、地域の担い手の育成が一層望まれています。

様々な技術革新が進む変化の激しい中で、職業に関する専門学科(以下「職業学科」という。)においては、求められる能力や専門知識の高度化に対応する教育内容と施設設備の充実が望まれています。

そのため、高校生段階では、次のことを踏まえたキャリア教育をより一層推進することが大切です。

生徒一人一人が社会の状況を理解するとともに規律・規範を身に付け、また、企業やNPO等民間施設との連携を図りながら、生徒自らが主体的に取り組むインターンシップをはじめとする体験活動等を通して、自己の希望や能力・適性等を把握し、将来の生き方や職業を適切に選択できる能力を身に付けること。

企業やNPO等民間施設との連携を図りながら、学校の教育活動全体を通して、「学ぶこと」、「働くこと」、「生きること」を相互に結びつけ、生徒一人一人が「独り立ち」するための組織的・系統的な教育を推進すること。

特に、職業学科設置高校においては、産業界等と連携を図りながら、協同で地場産業やものづくりなどにおいて地域を担う人材を育成する教育システムの構築を図るなど、地域や時代のニーズに応じた職業教育の充実を図ること。

【検討会議での主な意見】

全体を通して

ニート・フリーターへの直接の施策ではなくて、ニート・フリーターを出さない予防のための取組が必要である。

高校卒業時に無業の者がいるとともに、3年以内に会社を辞める生徒が多いことも課題である。

我慢や忍耐力を付けることにより、挫折を乗り越える力を身に付けさせることが大事である。

大学進学希望者（普通科等生徒）を含めた取組が必要である。

北部地域では都会志向があるので、地域に帰ってきて、地域の担い手となるように、高校生を育てていくことが大事である。

体験活動について

インターンシップについては、職業を体験させることは非常に大事であるが、短期間では一部署のみの活動となり、その結果安直な進路選択となる可能性があるので、会社の方針等を十分生徒に理解させる事前指導が必要である。

インターンシップにより、生徒はずいぶん成長する。職業学科の生徒には実感もつかめて有効だと考える。

受入れ企業や大学、社会人講師等について教員の中では限定されているので、他にも紹介できるシステムが必要である。

教員の指導力の向上について

全ての教育活動の中にキャリア教育の内容を取り入れていくことが大事であり、そのような視点での教員の研修が必要である。

教科教育の研修等において、キャリア教育の視点に立った問題解決能力を付ける教え方の研修を入れてもらいたい。

職業学科について

私立高校には「商業」「農業」「工業」等の職業学科を設置している学校が少ないことから、府立高校の職業学科の充実が大きなテーマの一つである。

インターネット等を活用しながら、職業学科のすばらしい取組を多くの府民に情報提供していくことが大切である。

職業学科の施設が老朽化している。新しい施設・設備で学習させることが必要である。

施策の基本方向

企業やNPO等民間施設と連携した教育内容の充実

時代のニーズに応じた職業教育の充実

地域の担い手を育てる高校教育の充実

重点施策

企業やNPO等民間施設と連携し、生徒自らが主体的に取り組む進路希望に応じた体験活動等を全ての高校で実施します。

進路希望に応じた体験活動を行うための活動場所や外部講師の開拓、登録をNPO等民間施設に委託し、全ての府立高校で進路希望に応じたインターンシップ等の体験活動や社会人講師による講話を実施

キャリア教育サポーター（仮称）を高校に派遣し、教育活動全体を通して、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。

キャリア教育に精通する企業関係者や学識経験者をキャリア教育サポーター（仮称）として全ての府立高校に派遣し、キャリア教育にかかわる教員研修や生徒に対しての進路相談を充実

産業界等と連携を図り、地域の担い手を協同で育成する教育システムを職業学科設置高校で研究します。

産業界や「北部産業活性化拠点・京丹後（仮称）」と連携を図り、地域の担い手を協同で育成する京都版デュアルシステムを研究

インターネットを活用した職業学科の取組を通して、キャリア教育を推進します。

職業学科統括ホームページを開設し、職業学科同士の連携した取組と物品の販売を促進

職業学科の在り方を検討し、時代のニーズに応じ、求められる能力や専門知識が身に付けられるような職業学科の施設・設備を充実します。

(別紙)

平成19年度に京都府教育委員会が実施している主な施策

事業名	内容
府立高校「教育改革チャレンジプラン」支援事業	<p>社会人講師授業改善プログラム 京都の大学や企業・学研都市の研究機関等の外部人材を積極的に授業の中で活用し、生徒の学習意欲や学力の向上を図る。</p> <p>内容・・・ビジネスマナー 日本茶の歴史 建築技術 京都の「友禅」等</p> <p>資格取得促進 希望する進路に必要な資格の積極的な取得を促進する。</p> <p>内容・・・漢字検定 情報処理、簿記 危険物、溶接等</p> <p>勤労体験学習 勤労体験や職場訪問等の体験を通し、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせ、自らの進路を切り拓く能力と態度を育成する。</p> <p>内容・・・インターンシップ 職場体験等</p>
教育振興設備充実費	<p>産業教育設備充実 産業構造の変化や科学技術の進展に対応した設備整備を行うことにより、府立高校における職業教育の充実を図る。</p> <p>内容・・・職業学科又は総合学科を設置する府立高校の設備整備</p>

《プランの検討経過》

第1回	開催日	平成19年7月11日(水)
	内容	検討課題について 勤労観・職業観をはぐくむ教育内容について 企業やNPO等民間施設と連携した教育内容の充実策について
第2回	開催日	平成19年7月26日(木)
	内容	勤労観・職業観をはぐくむ教育内容について 企業やNPO等民間施設と連携した教育内容の充実策について 地域の担い手を育てる高校教育の充実策について
第3回	開催日	平成19年8月10日(金)
	内容	企業やNPO等民間施設と連携した教育内容の充実策について 時代のニーズに応じた職業教育の充実策について 地域の担い手を育てる高校教育の充実策について
第4回	開催日	平成19年9月4日(火)
	内容	府立学校キャリア教育推進プラン(中間案)について

《検討委員メンバー》

氏名	所属名・職名
大嶋 知之	京都工芸繊維大学アドミッションセンター教授(参与)
秋津 元輝	京都大学大学院農学研究科准教授
大島 浩樹	京都府立工業高等学校教諭
岡本 忠則	オムロンパーソネル株式会社チーフコンサルタント
川村 雅己	京都経営者協会事務局長
清原 當博	京都ホテルオークラ専務取締役総支配人
坂根 文伸	京都府教育庁指導部高校教育課首席総括指導主事
田中 守	京都府立高等学校PTA連合会前会長
寺田 昭夫	丹後機械工業協同組合常務理事
原 清治	佛教大学教育学部教授
原田 紀久子	NPOアントレプレナーシップ開発センター事務局長
森下 昌彦	京都府立菟道高等学校教諭